

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.7 vol. 123

第14回 脳卒中市民講座



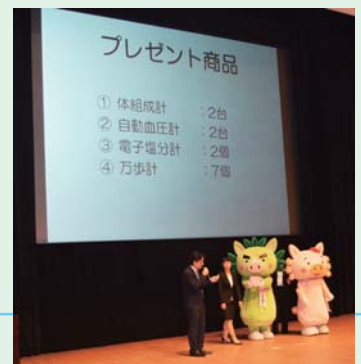
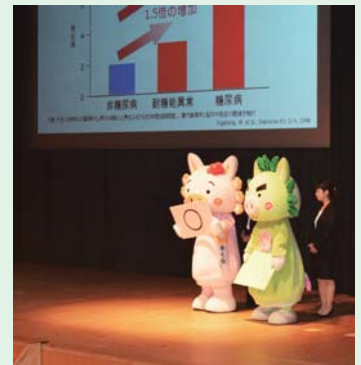
去る5月29日（日）に、鹿児島県民交流センターにおいて「みんなで学ぼう脳卒中！」と題した脳卒中市民講座を開催いたしました。鹿児島県は脳卒中死亡率が全国でも上位の状態が続いているため、脳卒中の発症予防や死亡率低下、後遺症軽減などにつながることを期待して例年開催しております。本年も（公社）日本脳卒中協会、鹿児島県、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、田辺三菱製薬株式会社、第一三共株式会社の共催で行い、他にも多くの機関にご後援をして頂いております。

今回は講演会に先がけて、当院スタッフ（薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションスタッフ）による脳卒中相談コーナーを会場の一部に設置し、市民の方の脳卒中に関する相談を直接受けさせていただきました。講演会では花田修一院長の開会挨拶に続いて、第一部は「脳卒中を予防しよう」と題し、脳卒中の危険因子とその管理方法、食事療法について、松岡秀樹（脳卒中センター長）、淵脇美保子（栄養管理室長）による講演を行いました。このセッションでは、より興味を持って学んでいただけるように、危険因子の管理や食事療法に関する〇×クイズに参加していただきました。皆さんクイズに答えつつ大変熱心に聴講しておられました。第二部では、脇田政之と宮下史生（いずれも脳血管内科医長）により、「これって脳卒中？—こんな症状があれば病院を受診しよう—」と題した講演を行いました。どのような症状で脳卒中を疑うのか、またもし発症した場合はどう対応しているのかわからない方も多いようでしたので、一般的な脳卒中の症状の他にも、頭痛、めまいなど、脳卒中かどうか判断に迷うような症状について、さらには万一脳卒中を発症した際の緊急の対応方法についても講演を行いました。第三部では、一昨年に引き続き鹿児島県PRキャラクターの「ぐりぶー」と「さくら」にも登場してもらい、脳卒中予防を推進する商品として家庭用自動血圧計や体組成計、電子塩分計、歩数計を参加者へプレゼントする抽選会を行いました。最後は上別府昌子看護部長が閉会の挨拶で締めくくりました。本年も会場は大いに盛り上がり、好評のもと無事に終了いたしました。

本年は開会時刻前後に大雨に見舞われたために例年よりは参加者が少なかったものの、幅広い年齢層の400名を超える方に参加して頂きました。事後のアンケートでは、「とてもよかった」「勉強になった」とのお声を多く頂きました。今後も市民の皆様のお役に立てるよう開催していく予定ですので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

最後に、今回も無事に開催することが出来ましたのは、院内各部署および共催、後援各所や開催にご理解頂きました連携先ご施設のご協力の賜と思っております。末筆ながらこの場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

（文責：脳卒中センター長・脳血管内科医長 松岡 秀樹）



平成28年度 鹿児島医療センター 臨床研修説明会



平成28年6月10日（金）鹿児島中央駅前のソラリア西鉄ホテル鹿児島において、平成28年度 鹿児島医療センター臨床研修説明会を開催致しました。当日は医学生71名（鹿児島大学6年生40名、5年生31名、福岡大学6年生1名）と、会場が一杯になるほどの医学生にご参加いただきました。また、研修協力病院からは鹿児島大学病院総合臨床研修センター副センター長 瀬戸山 仁先生、国立病院機構指宿医療センター 田中 康博院長にもご出席いただきました。説明会では、花田院長による病院概要の説明、続いて1年目研修医 清原 佐央里先生と2年目研修医 大江 将軍先生による自身の経験を元にした当院・協力病院での初期研修の紹介、そして臨床研修プログラム責任者 菰方 輝夫先生からは研修プログラムについての説明を、包括的にかつ変更点を踏まえ行いました。その後、城ヶ崎臨床研究部長の乾杯で始まった懇親会の際には、動画やスライドを使用して各診療科の紹介をそれぞれの医師によって行って頂き、盛会のうちに終了いたしました。今回の説明会を通して、医学生の皆さんに当院での初期研修について知っていただける大変良い機会となりました。

研修医は将来の鹿児島県医療を担う宝石の原石であり、当院を活性化し、力強く牽引する蒸気機関車ともなります。近年「城山」プログラムに参入してくれる研修医が増えてきましたことは、平成28年度のDPCI群取得にもつながり、病院にとって大変喜ばしいことではありますが、一方で研修スケジュールがタイトになり、研修の質がしっかり担保されるのか、また上級医、指導医の負担も増えてきたことも事実であります。臨床研修管理委員会では、研修の「均てん化」、例えば、麻酔科の外科系から救急系への移行、循環器科からがん系、横断的診療科への研修推奨、各診療科にヒアリング、適正な研修医の数を調査し、研修の質を担保する、あるいは鹿児島大学病院を中心とした基幹型協力病院・協力研修施設を有効活用することで、研修医同士の親睦交流・他流試合を促し、臨機応変な研修スケジュールの構築を心がけております。研修医に対しては、2年間の充実した研修生活が送れるように、研修プログラムと環境を整備する一方で、自助努力も求めています。マスコットキャラクター「まもる君」は、患者様を守るだけでなく、初期臨床研修医の身分保障のバックボーンとなることも学生さんにマニフェストしました。

今回の説明会開催にあたりご協力いただきました先生方、その他スタッフの皆さまに御礼申し上げます。そしてどうぞ、引き続き、当院で研修した先生方が、それぞれ個性を持った光輝く宝石のような臨床医となって当院および鹿児島県医療の将来を担い、当院の安定成長に繋げるために、医師、メディカルスタッフ、事務方の皆様におかれましては研修医教育へのご配慮を何卒宜しくお願い申し上げます。

（文責：臨床研修管理委員会 菰方 輝夫、前田 苑美）



熊本地震看護応援に参加して

平成28年4月14日に発生した熊本地震における国立病院機構の支援活動として、4月25日～4月28日の4日間、熊本医療センターの救急外来へ看護応援に行きました。震災直後は、一日200件程度救急の受け入れを行っていたという事でしたが、私が応援に行ったときには、半分程度の受け入れでした。避難場所からエコノミー症候群や、PTSDの方が多く搬送されてきました。その方々に話を伺うと、涙を浮かべながら地震直後の怖さや今後の見通しがつかず不安や心配を抱えていると話されていました。私はその方々の話を聴きながら、寄り添う看護が大切であると感じました。また、多くの職員がまだ病院の中で避難していたり、本震が夜中に起きたために家の中で寝るのが怖く、車中泊している方もいるとのことでした。また、仕事中にも余震があり、自分自身も被災者でありながら、笑顔で働いている職員の方々の姿に感銘を受けました。



私たちの住む鹿児島には桜島があり、同じような災害が起きる可能性もあります。その時にどのように行動するか日頃から考え、訓練など行っている事が大切であると感じたので、今回の経験を災害時の看護に活かせるようにしていきたいと思います。

(文責：副看護師長 今村 朋子)

第5回 救急医療懇談会 報告

平成28年6月13日（月）、小雨の降るあいにくの天気の中、第5回救急医療懇談会が当院大会議室にて開催されました。

この会は、「顔の見える救急医療」をコンセプトに鹿児島市消防局と合同で開催され、今回は救急隊より16名、当院職員71名に参加していただき、後半では立ち見が出るほど盛況でした。

最初に事例報告2例。1例目は第一循環器内科の楠元先生による「劇症Ⅰ型糖尿病による代謝性アシドーシスによって急激な転機をたどった一例」。症例を検査結果も交え、時系列で分かりやすく説明頂きました。2例目は脳血管内科の宮下先生より「当院の脳梗塞に対する急性期血行再建術の現状」と題し、脳梗塞の事例を2件発表いただきました。

最後は鹿児島市消防局中村救急係長より鹿児島市の救急の現状をご報告いただきました。病院名は隠されていましたが、何となく分かるような、分からないような、ユニークな発表で会場の笑いを誘っていました。また、活発な質問もあり、救急隊から見た病院への要望やドクターカーに関する思いなど会場は熱心に聞き入っていました。

医療機関と救急隊とが立場は違っても、救急医療の発展を願い、意見を交換出来る有意義な場であり、今後も継続していかなければと強く思える会でした。

(文責：経営企画室 大坪 雅彦)



第2回 連携病院事務職員勉強会を開催しました

平成28年6月27日（月）に当院において2回目となる「連携病院事務職員勉強会」を開催し、10病院から20名の参加がありました。今回は、「人材育成」をテーマに約2時間に渡り話し合いました。

最初に当院の人材育成の種類（体系的な研修、OJT、業務経験、研究と発表、自己研鑽）及び課題等についてプレゼンさせていただき、その後各病院から当院に対する質問やそれぞれの病院での取り組みや課題等のご意見をいただきました。

今回は、役職者の方が多く参加され、やはり指導する立場からの人材育成の難しさについて共通したご意見がありました。共通した主な意見としては、「上司、部下ともに日常業務が忙しく適切なOJTが出来ない」、「指導する側の専門的な知識不足」、「研修体系が確立していない」やいくつかの病院では病院勤務経験のない部門からの異動など別な面での課題提示もありました。

取り組みについては、OJTから医療経営士や簿記などの資格取得の推進、また、人材開発室を設置され取り組まれている病院もありました。どの病院も人材育成の重要性の認識は高く2時間という短い時間ではありましたが、それぞれの病院の取り組み等を聞くことができ大変有意義な勉強会だったと思います。

今後、我々医療機関を取り巻く環境は大変厳しくなってくると思われます。その中で事務職の役割はますます重要になってくると思われます。今後もこのような勉強会を通して業務改善等に貢献できればと考えています。

（文責：事務部長 太田 春彦）

新任紹介



小児科

二宮 由美子

4月より非常勤で勤務することになりました。鹿児島大学病院小児科の二宮由美子と申します。以前にも働いたことのある医療センターでまた仕事ができ大変嬉しく思います。普段は2児の母であり子供達に負けないくらい元気で、テニスとスポーツ観戦が趣味です。限られた時間ですが、一つ一つの症例を大切に、日々多くのことを学んでいきたいと思っています。どうぞご指導のほど宜しくお願いいたします。



小児科レジデント

徳永 美菜子

みなさん、こんにちは。小児科医の徳永美菜子と申します。鹿児島大学卒業、初期研修も鹿児島大学で行いました。生まれも育ちも生粋の鹿児島人です。小児科入局の1年間は大学で3次医療を学び、4月より鹿児島医療センター小児科へ赴任することになりました。まだまだ未熟な面ばかりですが、日々多くのことを学びながら成長していきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



皮膚科レジデント

山村 健太郎

初めまして、4月から鹿児島医療センター皮膚腫瘍科で勤務します山村健太郎と申します。前年度までの勤務先は大阪と京都で、関西の外に住むのは初めてです。鹿児島はどんな土地かと不安に思うところもありましたが、人も良く、食事もよく、非常に住みやすい街で、快適に過ごせています。出来るだけ早く診療に慣れて、皮膚腫瘍科の他の先生とも協力しながら診療に当たっていききたいと思っています。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



泌尿器科レジデント

古屋敷 和歌子

泌尿器科医2年目のフルヤシキです。昨年は鹿児島大学病院に勤務しておりましたので、初めて外来を任せられることとなり、自分の患者さんを持つという責任感を感じています。自分の外来が長引くと午後からの手術が遅くなるので時間との闘いです。熊本出身・鹿大卒業ですので訛りは気持ち悪いですが、声を張って頑張っております。バレーボールをしていたので運動できる趣味をみつけたいと言いながら、温泉→DVDで終わる休日のご数年続いています。何か面白いイベントがございましたら御一報お願いします。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 藺田・谷口・田上・吉永・椎原・吉留・菊永・久保・櫻木・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

